

# 琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係18 沖縄返還交渉 機密漏洩事件（国会対策等）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): 檜崎弥之助, 青木正久, 栗山条約課長, 佐藤総理, マイヤー大使, 愛知外務大臣, 吉野・井川・スナイダー会談, 信託基金 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43730">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43730</a>

國會議事錄

⑤

北米一課長

(参考) 樺崎孫之助議員予奪委員会項目要旨 2月7日  
白紙

1. 防衛力の限界

- 1) 口際自衛隊縮小関連
- 2) 總理答弁の想定と前提条件
- 3) 今次防衛決定の際の口際情勢判断と  
平時の防衛力年度別情勢判断
- 4) 口防の基本方針(昭32)  
3項のうち必ず限度以上は限る下限あり  
(憲法の許容範囲内の口内必ず最低限度  
処理答弁)
- 5) 平時の防衛力 有事即応能力あり  
(有事即応の考えを以て自衛力の整備の原則)  
(平時の防衛力破たんは平時の防衛力の防衛に  
当り 防衛府長官)
- 6) 平時の防衛力(平時)に非常時を以て考えない
- 7) 防衛力の限界中の海上自衛隊、航空自衛隊

2. 安保運用協議会等

- 1) 法的根拠 臨時協議
- 2) 自主動向 (イ) サカ: 原戦車搬送  
(ロ) 基地整理
- 3) 決定権あり、協議調整件あり  
外務大臣の責任

4) 基地縮小(面積)

- 5) 安保御神作論
- 6) 朝鮮韓国オファーと12協定会  
出席するとの報道(程園)あり

8. 沖縄関係、地位協定の変更

- 1) 65. リーガルな解決、P-1P-
- 2) 地位協定24条2項 岩波三次に付330億ドル  
3) 電信文の提出要求(大匠1987年4月2日  
流24上4)

田中武夫<sup>議員</sup>質問文 2月7日 石橋

1. 基地公書

基地公書と周辺整備法との施行時期の  
関係は

2. 半軍基地関係

半軍基地の整備時期









撤去費だといって明らかでない。これは明確なことを皆さん十分御承知のことでしょう。ごまかしやだめです。

○吉野政府委員 いま先生の御指図のような事実、われわれは全然存じておりません。

なお、パリ会議におきまして、いままでの会議の主たる内容は、P3の那覇空港からの撤去と、それから返還日をわが方からは四月一日を希望する、こういうことを強く述べた、これはわれわれとしては覚えております。

○横路委員 パリ会議ではアメリカ側とどういふやりとりがあるでしょうか。アメリカ側は文書として明確にでもらわなければならない。日本側は、じゃそれは完全に秘密に保たれるのか。それに対してアメリカ側は、公表される可能性も無いわけじゃないということになって、文書化の問題について話が進まなかった。皆さん方そういうことをおっしゃるのだったら、愛知、マイヤ、金と愛知、ロジャーズ会議の議事録を提出してくださいよ。そのやりとりが明らかになっていって。

○吉野政府委員 この当時の会議はほとんど口頭で行なわれておまして、議事録というものはお互いにとっておきませんし、また、お互いに、それ以前の会議につきましても、議事録というものは、公式なものは一切ございません。したがって、会議の内容等は正確な記録というものはございませ

○横路委員 お互いにその署名したものはなくとも、日本側でまとめたやつがあるでしょう。お互いの交渉の中で、そんなものをほっておくはずがないじゃないか。

○吉野政府委員 この会議は、先ほど御説明いたしましたように、お互いにそういうメモというものは一切とらずに口頭で行なっておりました。したがって、そのような記録というものは残っておりません。

○横路委員 じゃ、あなた方、大臣にどうやって報告したのですか。あるいは全部一応、日本側のアメリカ側とのやりとりというものについて、お互いに署名をかかしたというものがじゃなくても、日本側の会議の中身というものをきちんと明確にしたものがあるじゃありませんか。

○吉野政府委員 交渉の様相につきましては、われわれは、先ほど申し上げましたように、口頭でやっておりましたから、何も残っておりません。もちろん、その第一の第一案とか、第二案とか、そういう意味でお互いに草案みたいなものを交換したことはございませぬ。しかし、そのようなものは、以外に、一切、いわゆる議事録というものはとっておりません。

○横路委員 それじゃどうも納得できません。それじゃ納得できないです。あなた方そうやってしらべを切つたためです。それは、この四百万ドルについて三億三千万ドルの中身を含め、そういう約束で最後まで何がもめたかという、文書化するがしないかということがもめたじゃありませんか。ちゃんとそれが文書になって残っているじゃありませんか。

○吉野政府委員 この点は、先ほど述べましたように、四百万ドルに関しても一切その記録は残してございませぬし、またそのような文書もございませぬ。

〔発言する者あり〕

○横路委員 前出にお願いします。私はずいぶん、あなた方自分でおやりになったことだから、一番よく知っていることをとほけるとは実は思わなかった。愛知、マイヤ、金と愛知、ロジャーズ会議、お互いに署名を取りかわした議事録はありますか。しかし、そういうやりとりがあったということをご明確にした文書が残っているじゃありませんか。

○吉野政府委員 四百万ドルという数字はございませぬ。しかし、議事録の出たその当時の最初の数字が四百三十万ドル、こういふことであつたことはわれわれも記憶しております。

○横路委員 いいですか。その四百万ドルについてアメリカ側の議案でもこの点というものはほとんど議論されてない。アメリカ政府が出すお金しかも一切、いままでアメリカ側の態度というものは、サンフランシスコ議和条約の十九条の(ロ)項でもって解決済みという姿勢であつた。そこでアメリカ側は、先ほど私が話したこの十九世紀末にできた古い法律を持ち出した。これを根拠にした。つまり、海外からお金を引き出し

て、それを基金にして持ち出すことにすればそれはいいだろう。そこでいろいろ皆さん方との間に、先ほど私が話したようなやりとりがあつて、その上で最後には、文書化するかしらいかということが問題になつた。これはパリ会議まで持ち越しになつて、パリ会議の中で日本側としてはいまも草案までつくつていたでしょう。アメリカ側も文書として出してきて、日本側も草案、この取りきめについていろいろ話が進んでいきました。パリ会議で、文書としてあくまでも明確にしてもらわなければ困るといふアメリカ側の話、それに対して日本側は、完全に秘密が保たれるかということをお押しして、そこでアメリカが逃げられた。そこで文書化することはやめたわけだ。しかし、この金額そのものは、四三三三による四百三十三万ドルというものが三億三千万ドルの中に含まれて、そしてそれによってアメリカは支払いをするというところでアメリカの議案を乗り切つた。一方、沖縄県民の憤りというのを訴ふる、こういう形になつたわけでありませぬ。これは、皆さん方のいろいろなものを見ると、明らかにそのやりとりが出てくる。それでもあなたたち、全然そんなことない、こうおっしゃられるわけですか。そうではない、この四三三三項がはつと出てきた、説明のつくこととございませぬよ、それは、やはり私は、外務省のほうにあるそのものを明確にして出していただきたいということを要求したいと思

○福田國務大臣 横路さんも御承知と思ひますが、条約をつくる、その段階において、もう一回も何回も会議があるわけですから、そういう際にも、お互いに共通のメモをつくつておる、こういうようなことはありませぬ。ある段階で正式な会議が行なわれたという際には、これはちゃんとメモをつくつておる。それでありませぬ。いまアメリカ局長からお話がありましたように、これは、アメリカ局長のあるいは頭の中とか、そういうところにはその経過というものが記録されておる。こういうふうにお話ですが、これは私は少し無理じゃないか、そんな感じがしながら押問いたしておつたわけでありませぬ。

○横路委員 私は何も共通のメモなんて言つてない。共通のメモなんて言つてない。日本側です。○福田國務大臣 日本側にいたしましても、アメリカ側からこういう要求があり、これに対してこういう答弁があり、またアメリカからこういう話があつた、そういうことを一々記録をいたしておらないと思ひます。私も若いころお役人としておつた経験がありますが、いろいろ交渉を、各行との間で予算の折衝を行ないます。その際の記録を一々保存しておくと、こういうようなことはいさなかつた。これはまあ吉野局長からよく聞いてもらいたいんです。これは頭の中に一番その記録が保存されておる、こういうふうな存じます。